

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年9月10日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

住民・病院・行政が一体となり、白老町立病院を再生させよう 「地域医療を考える集い」大橋会長が講演 署名は4000筆超える

9月7日、「地域医療を考える集い」が開催され（実行委員会主催）、北海道社保協の大橋晃会長（勤医協中央病院名誉院長）が、「白老町立病院の維持・再生のために」と題して講演しました。

集会には、町民をはじめ、副町長や町の担当課長、町議会議員、病院の関係者など約100人が参加しました。



大橋会長は、町立病院を再生させるためには、「住民のニーズに応える医療を拡大し、必要な人材と設備を確保して経営を改善すること」が基本であると指摘し、具体的には、「必要な医師体制の確保」「医療・介護の連携の強化」「アメニティの改善」など、他地域の先進例も紹介しながら提案しました。

また、「病院の廃止は、患者・住民の負担増だけでなく、国保財政に大きな影響を与える」「医療・介護こそ、地域にとって大きな雇用の場」と強調しました。最後に、沢内村の経験をもとに、首長の姿勢とともに、「住民・病院・行政が一体となって、町立病院を再生していこう」と呼びかけました。

参加者からは「町立病院の役割がよくわかった」「病院がなくなったら大変なことになる。署名を広げなくては」「やはり、町や病院まかせではよくない」「私たちも病院をささえなければ」などの感想が出されました。

守る会 町長と2度目の懇談

「白老町立病院を守る」運動は、まちの雰囲気も変わってきています。白老町立病院を守る会は、町民宅や企業もまわり、病院の存続を求める署名はすでに、当初目標の4000筆（有権者の4分の1）を上回っています。同会は、8月27日には、町長や町議会議員、病院長と2回目の懇談、要請を行いました。戸田町長は「町民の意志として重く受け止めています」と回答しました。会は、さらに署名活動を続けています。

自治体病院等ベッド減少すすむ 病院 369床減/診療所化も 診療所は5床減

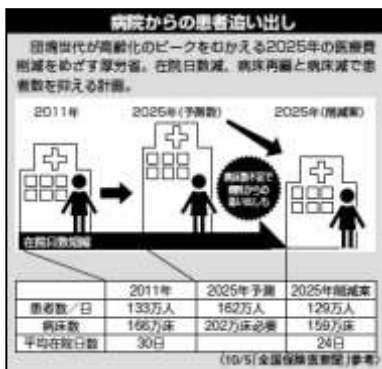
医療機関名	時期	病床数	医療機関名	時期	病床数
順天病院(北広島市)	4月	240→120床 ▲120	町立長沼病院	4月	199→128床 ▲71
市立芦別病院	4月	189→169床 ▲20	新ひだか町立静内病院	4月	80→58床 ▲22
町立厚岸病院	4月	88→44床 ▲33	町立別海病院	10月	99→84床 ▲15
市立札幌病院/(旧静療院)	4月	市立病院 772→810床 +38/旧静療院 162→60床 ▲102 計 ▲64			
京極町国保病院	4月	43→19床 ▲24 (診療所化)			
羅臼町国保診療所	7月	19→14床 ▲5	羅臼診療所は2008年4月に診療所化しました		

2012年度「北海道自治体病院等広域化・連携構想」の取り組状況より(2012.4~2013.3)

社会保障制度を解体する「改革国民会議」報告書

医療・介護提供体制改革が最大の任務

病院・病床減らし 病棟から追い出し早め、「安上がり」の在宅へ



報告書では、社会保障4分野の改革の項目で、「国民会議の最大の任務は、前回の社会保障国民会議で示された医療・介護提供体制改革に魂を入れ、実効性と加速度を加えること」と強調しています。

政府は、「団塊の世代」がすべて75歳以上になる2025年に、全病床数が202万床必要と試算しています。改革案は、現在166万床(2011年)を増やさず、159万床に削るものです。強制的に平均入院期間を短くして、態勢が整っていない「安上がり」の在宅へ誘導しようとしています。

そのため、条件を強化して医療機能を分けて病床数を減らし、都道府県ごとの医療計画、介護計画(地域包括ケア計画)をさらに強化することを狙っています。